

第33回 技能グランプリにて 大工 原田宗広が、「金賞」および「厚生労働大臣賞」を受賞。 出場した大工3名が入賞の快挙。

第33回 技能グランプリが大阪府で開催され、平成建設の大工・原田宗広が悲願の「金賞」を受賞。
さらに、渡邊唯希が「銅賞」、樺沢友紀が「敢闘賞」を獲得する快挙を成し遂げました。

技能グランプリは、特級・1級・単一等級の技能検定に合格した熟練技能者のみが参加できる大会です。厚生労働省等が主催し、日本のものづくり産業を支える技能士の技能向上と振興を図ることを目的とし、昭和56年から開催されています。「フラワー装飾」や「日本料理」など全30職種に及ぶ中、平成建設の大工は「建築大工」に出場しました。



左から樺沢大工、原田大工、渡邊大工、高嶋大工。

技能グランプリで快挙！ 平成建設の大工が表彰台へ

2026年2月27日より4日間にわたり大阪府（会場 インテックス大阪 ほか）で開催された、第33回 技能グランプリ「建築大工」に、当社より4名の大工が出場いたしました。静岡県代表として原田宗広および高嶋大輔、神奈川県代表として渡邊唯希および樺沢友紀が選出され、大舞台に挑みました。

この激戦の中、静岡県代表として出場した原田宗広が最高位である「金賞」および「厚生労働大臣賞」を獲得し、見事日本一の座に

輝きました。さらに神奈川県代表として出場した渡邊唯希も「銅賞」を獲得。同種目において2名が同時に表彰台へ上るという快挙を達成いたしました。また、樺沢友紀（神奈川県代表）も「敢闘賞」を受賞いたしました。

平成建設はこれからも、「技能を磨き 建築で語る 職人集団であり続ける」という理念のもと、職人の育成と技術の継承に邁進してまいります。皆様の温かい応援、誠にありがとうございました。

激闘の末、技能の日本一に！

悲願の金メダル & 銅メダル

全国各地から、35名の腕利き大工が会場

全国から腕利きの大工が集結した会場は、多くの観客が見守る中、独特の緊張感に包まれました。

2日間、計12時間という限られた時間の中、出場した4名の大工は持てる技能のすべてを注ぎ込み、存分に腕を振りました。

難課題「振隅木小屋組（ふれすみきこやぐみ）」

今回の競技課題は、複雑な角度の部材を組み合わせる「振垂木小屋組」。競技は、鉋（かな）や鑿（のみ）などの手道具を用い、原寸図の作成から木削り、墨付け、そして加工仕上げから組み立てに至るまで、全ての工程を制限時間内に完遂しなければなりません。さらに、主要な条件である「垂木の勾配」が試験当日に提示されるため、競技の難易度は一層増したものとなりました。

出場した4名の大工は、大会までの数ヶ月間、この課題製作を幾度となく繰り返してきました。常に本番を想定した実戦形式の練習を積み、0.1ミリ単位の精度を追求。今回の快挙は、その地道な研鑽が、見事に実を結んだ結果と言えます。

技能グランプリの舞台で得た刺激と、そこに至るまでの日々の練習の積み重ねは、私たち職人集団にとってかけがえのない糧となりました。この研鑽の過程で磨き上げた技能の一つひとつの現場に還元し、さらなる高みを目指して皆様のご期待を超える品質を追求し続けてまいります。



競技中の渡邊大工（左）と樺沢大工（右）。共に入賞を勝ち取る。



一つひとつの工程を丁寧に積み重ね、見事「金賞」に輝いた原田大工。

